

【日本の大学】第20回——上智大学：普遍性と人類愛を追求

キリスト教のカトリック修道会イエズス会が1913年に開設した日本初のカトリック教会系の私立大学が上智大学である。学校法人の上智学院が経営しており、宗教的色彩が強い神学部のほか、法学部、経済学部、外国語学部、理工学部など全部で9学部を持つ総合大学である。



ザビエルにつながる

経営する上智学院の佐久間勤理事長は、メッセージの中で、「本大学の規定にあるキリスト教精神は、人を愛する・助ける・大切にする、といった人類愛である。また、カトリックとは普遍性を意味する概念である。普遍的であるとは、均一均質とは異なり、多様性を保ちながら一致することである。人類愛と普遍性という二面に基づくスピリットとして折々に感じつつ、(大学では) のびのびと自由に学んでほしい」と述べている。

以下、同大学のホームページなどから大学の歴史や現状を見てみよう。

設立母体であるイエズス会はローマ・カトリック教会に所属する男子修道会の一つであり、イエズス会と言えば、創設者で初代総会長を務めたイグナチオ・デ・ロヨラ（1491～1556年）や、イグナチオとともに会の設立に携わり、1549年に日本に初めてキリスト教を伝えた聖フランシスコ・ザビエルにつながっている。ザビエルは日本人の資質を高く評価し、

イエズス会会員宛の書簡で、日本での大学設立の願いを伝えたとされている。

上智大学の具体的な設立は、イエズス会会員のドイツ人ヨゼフ・ダールマン師が 1903 年にインドを経て日本に上陸した時に始まったとされている。同師は日本の信者からカトリック教会の文化的な基盤となるカトリック大学設立を強く要望され、その 2 年後に同師が当時の教皇ピオ 10 世に拝謁。教皇はイエズス会の会員を日本に派遣して大学設立を目指すことを約束されたという。

その後、日本においてカトリック系大学の設立が可能かどうかの調査などが実施されたあと、1908 年、ドイツ汽船に乗った 3 人のイエズス会神父が横浜に上陸、具体的な設立準備が進められた。イエズス会本部からの資金で、現在の東京・千代田区紀尾井町に用地を購入した。校舎を建設する費用には足りなかったため、ドイツのカトリック信者らの献金によって校舎建設資金は賄われたという。



市ヶ谷キャンパスのフランシスコ・ザビエル像

いばらの道

1913 年 3 月、文部省から大学設立の許可があり、専門学校令による文学部と商学部からなる上智大学が誕生した。入学案内の新聞広告が掲載されたのは 3 月 31 日だったため、4 月 21 日に開講した時の学生はわずか 15 人だったという。

創立して10年、大学はいばらの道をたどった。イエズス会の北ドイツ管区の管轄下にあったため、第1次世界大戦でドイツが敗れ、経済的な援助がなくなってしまった。その時、ドイツは日本と敵国関係にあったため、学長やドイツ人教授(神父)は外出禁止令を受けた。

1918年の大学令で早稲田、慶応義塾などの私立大学が専門学校令から大学令による大学に昇格したが、上智は国に納める供託金がなく、大学令に基づく大学に昇格できたのは1928年になった。

1923年9月に関東大震災が発生、苦境にあった大学にとってさらなる打撃となった。3階建ての赤レンガ校舎の2、3階部分が崩れ落ちてしまった。1階部分を修繕し、2階は木造で建て増しをして仮校舎で再出発せざるをえなかった。

1932年には何とか、堅牢な現在の1号館校舎を完成させたものの、その後、カトリック信者の学生が軍事教練で靖国神社参拝を拒否したため、軍部から圧力を受け、そのことが報道されて受験生が激減するなど災いや苦難が続いた。

第2次大戦で日本もドイツも敗れ、国土は廃墟と化した。上智大学は米国の教会の経済的な援助によって、約230アールの土地を購入し、敷地を拡張した。連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)の兵士とその子弟の高等教育機関に指定されてその教育にも当たった。



1号館校舎

ようやく軌道に

1948年に新制大学として発足、文学部が哲学科、史学科、英文学科など5学科、経済学部が経済学科、商学科でのスタートだった。

1953年にイエズス会会員の大泉孝教授が第5代学長に就任、5か年計画を策定し、男女共学を取り入れることや、体育館、学生寮の増設など教育研究・環境整備を進めた。57年には初めて男女共学を認め、短期大学の卒業生女子4人の編入学を認め、翌年から正式に共学とした。当時の教職員や卒業生などは上智大学の特色が失われると心配したという話が伝わっている。結果的には、むしろ女子学生の卒業後の活躍ぶりが世間から高く評価され、大学の名を高める一因となるなど、現在は女子学生の人気が高いことで有名な大学である。

その後、ローマのイエズス会本部や米国のイエズス会から資金援助を得て順調な歩みを続け、1956年のクリスマスには学生寮を含む上智会館が落成、翌57年に法学部が認可され、2号館が完成。58年には東京・練馬区石神井に神学部が開設され、四谷キャンパスでは、文学部外国語学科から外国語学部が独立するなど、ようやく軌道に乗ることができた。

その後も、敷地の購入、建物の増設とともに1962年には理工学部の設置が認可された。これらの費用は学生の父母・卒業生など篤志家の寄付によって成し遂げられた。同年には、神奈川県秦野市に総合グラウンドを開設、73年には上智短期大学の創設などを進め、教育研究環境を整え、総合大学としての体裁を整えていった。

イエズス会系の高等教育機関は現在、世界に200以上、そのうち大学は約80校あり、ここで学ぶ学生は64万人以上になる。主な大学は米国のジョージタウン大学、フォーダム大学、ボストンカレッジ、イタリアのグレゴリアン大学、韓国の西江大学校などがあり、上智大学はこれらの大学と交換留学生協定を結ぶなど、世界373大学と協定を締結している。

現在の学部は、神学部、文学部、総合人間科学部、法学部、経済学部、外国語学部、総合グローバル学部、国際教養学部、理工学部の9学部の29学科があり、ほかにグローバル教育センター、言語教育研究センターがある。大学院は11の研究科があるほか、短期大学部と上智社会福祉専門学校などがある。



四谷キャンパス

四谷キャンパスに文系・理系の9学部すべてが集結する「小さな総合大学」だけに、他学部・学科との連携による学際的、横断的なアプローチによって自身の専門を深めていくことが可能である。都心にあって交通の便も良いといった利点があるが、一方で、キャンパスが狭い、食堂などのインフラに不満があるといった声が、学生の間からは聞かれるようだ。

全学共通科目として、キリスト教ヒューマニズム教育の基礎を担う「キリスト教人間学」など、宗教に関する授業が必修となるなど、キリスト教信者ではない学生からは、不満の声が聞かれるようだ。

神学部は、日本で唯一のカトリック神学部である。カトリック教会の長い伝統を受け継いだ世界のカトリック大学のネットワークの中で、本格的にキリスト教を学ぶことができる。

文学部は、哲学科、史学科、国文学科、英文学科、ドイツ文学科、フランス文学科、新聞学科と保健体育研究室からなる。1年次から学科ごとに専門的な学びをスタートさせるのが特色で、早い段階から一人ひとりの興味に合った学びに取り組むことができるとしている。所属学科以外の学びに触れる機会も作っており、新たな知識との出会い、創造的な学びを生み出すために、横断型人文学プログラムも用意されている。



1号館内部

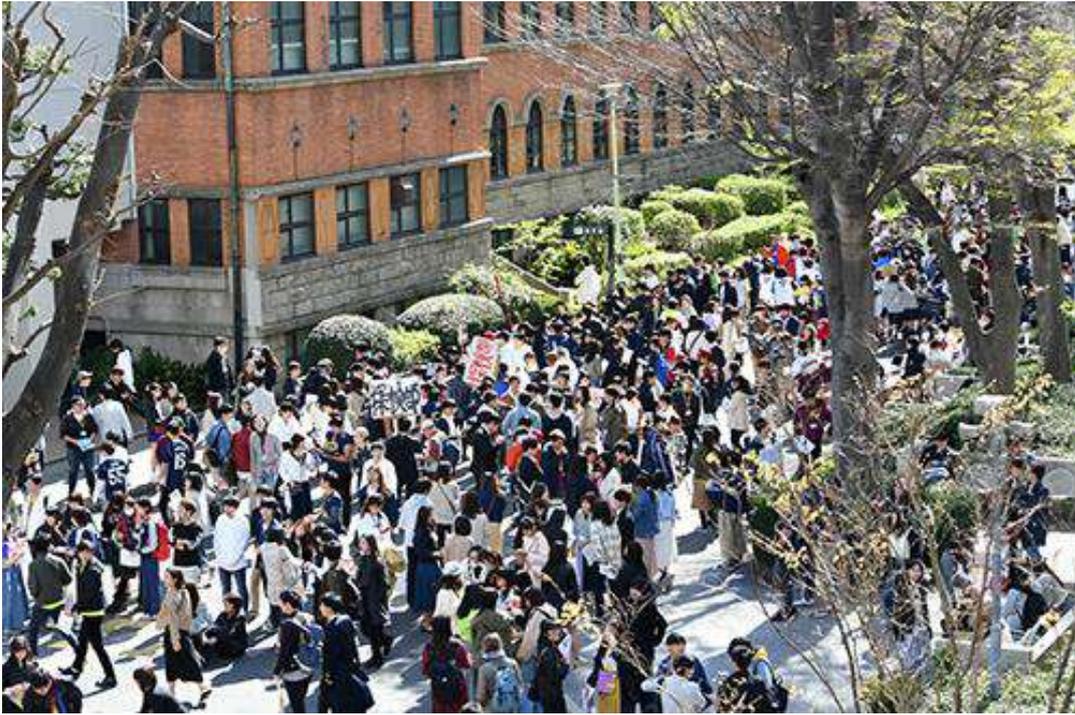
人気の外国語学部

上智大学の中で、特に人気の高いのが外国語学部であろう。実践的なトレーニングによって体得する高度な外国語運用能力を武器に、新たな「知」を切り拓く。単に「言語を学ぶ」だけではなく、「言語を通じて学ぶ」ことを重視し、言語圏の歴史、文化、社会、経済、政治などを多面的に研究しながら、地球規模の視野を養成するとしている。

英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科、イスパニア語学科、ロシア語学科、ポルトガル語学科があるほか、2年次の秋学期に、九つの「研究コース」から一つを選択・登録し、自分が関心のある領域について専門的な研究を進めていく。

「読む・書く・聴く・話す」という専攻語に関する確かな言語運用能力を身につけながら、英語・日本語を加えた「3言語」を駆使して専攻語圏地域を研究する。

国際教養学部は外国語学部をルーツに持つ新しい学部である。外国語学部から、1987年に比較文化学科が独立して比較文化学部として設置され、2006年に国際教養学部へ改組された。改組前から日本の国際教育の先駆者としての役割を果たし、国際的で幅広い教養と論理的思考力を育むリベラル・アーツ（教養）教育を英語で実施している。



現在の学生数は、学部学生が 12255 名、うち男子が 4823 名、女子が 7432 名と女子が多く、経済学部と理工学部以外の 7 学部で女子が男子を上回っている。大学院（修士、博士前期課程）は 1026 名が在籍しており、こちらも女子の比率が男子を若干上回っている。（以上 2020 年 5 月現在）

現在の学長は、第 16 代の曄道佳明（てるみち・よしあき）氏である。慶應義塾大学理工学部機械工学科卒、同大修士博士課程を経て 2004 年上智大学理工学部教授、2017 年に学長に就任した。

文：滝川 進
写真：上智大学 HP から